



難治・重症・手術が必要な患者の治療

外来診療

重症アトピー性皮膚炎、結節性痒疹、多形慢性痒疹の治療においては、治療に困った場合には、正しく診断できているか、に立ち返ります。その上で、患者の苦痛を減らす、副作用を生じない、ことを基本姿勢として、最新の治療や独自の「アトピー性皮膚炎・痒疹治療アルゴリズム」を用いて治療しています。

乾癬は、かつての「治らない病気」としてではなく、多彩な治療手段を用いて、患者の症状や生活スタイルに合わせた治療手段を選択します。心筋梗塞などの循環器系疾患を合併しやすいこともあり、内科とも連携し健康管理にも心がけています。最近では、関節痛を伴う「乾癬性関節炎」患者も多く、関節リウマチとの違いを見極めるために、膠原病内科とも連携しています。

尋常性白斑と円形脱毛症は、現在でも治療の難しい疾患です。尋常性白斑ではNB-UVBやエキシマライトなどの紫外線療法のほか、ミニグラフなどの手術療法も行なっています。円形脱毛症には、DPCPによる局所免疫療法（かぶれを起こして発毛を促す治療）を行なっています。

入院診療

2名の日本皮膚悪性腫瘍指導専門医が在籍し、悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、乳房外パジェット病、メルケル細胞癌などの手術を多数実施しています。高齢化が進み、皮膚悪性腫瘍患者は年々増加し、入院患者の半数を占めます。早期発見早期治療が生命予後を改善するだけでなく、術後に外見を維持するためにも大切です。おかしいと思ったら、まず、近くの皮膚科で診てもらってください。

皮膚科独自の疾患である、尋常性天疱瘡、類天疱瘡、膠原病・類縁疾患である皮膚筋炎、成人スティル病、血管炎（好酸球性多発血管炎性肉芽腫、IgA血管炎など）などの患者も多く入院しています。ステロイドパルス療法、免疫抑制剤、血漿交換、IVIGなどを用いて治療しています。

講座研究紹介

臨床研究

- 実際の臨床から有効性の高い治療法を見出し「アトピー性皮膚炎・痒疹治療アルゴリズム」を作成しました。痒みとQOLの調査、衣類の皮膚刺激性などの調査も行い、診療に役立っています。
- 皮膚悪性腫瘍の外科的治療において、患者負担の少なくなる治療法を検討しています。

基礎研究

- 更年期モデルマウスを作成し、皮膚のバリア機能異常のメカニズムを調べ、角質の脆弱性があることを見出し、治療につながる薬剤などの開発を行なっています。
- アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬では、女性患者の方が重症度が低いことに着目し、エストロゲンが皮膚炎モデルに及ぼす影響を調べています。エストロゲンは角質機能改善に加えて、両疾患モデルで皮膚の炎症を抑制しました。
- アトピー性皮膚炎や更年期モデル、乾皮症モデルにおける搔痒の発症メカニズムを研究しています。